

平成22年度事業評価シート(ハード事業)

NO. 3

評価2 ハード

1 事業名等(Plan 1)

事業名	高山駅周辺駐車場等整備事業											
所属名	基盤整備部 駅周辺整備課 区画整理グループ											
第七次総合計画	政策	1	計画的な土地利用をめざして	分野	1	土地利用	基本施策	1	住みよい生活環境の実現と地域全体の秩序ある発展を図る	施策	2	市街地地域の土地利用
予算科目	7	4	2	土地区画整理	費	74200	駅周辺土地区画整理	事業				
					費			事業				
					費			事業				
根拠条例・実施要綱・担当部門計画等	高山市駐車場整備計画											
事業の実施主体	<input type="radio"/> 市 <input type="radio"/> 市以外→											
事業の実施方法	<input type="radio"/> 直営 <input type="radio"/> 指定管理 <input type="radio"/> 業務委託 <input type="radio"/> 団体等補助 <input type="radio"/> その他→											

2 事業の目的・概要(Plan 2)

目的は対象(何を、誰を対象に)と意図(対象をどういう状態にしたいのか)を、概要は実施手法、手順等を記入

目的	誰のために(対象)	市民、観光客を含めた高山駅周辺を利用するすべての人	受益者数	一人
概要	対象をどういう状態にしたいのか(意図)	・高山駅周辺土地区画整理事業に併せ、既存駐車場の再整備を行い、区画整理事業に伴う新たな駐車需要及び市街地周辺部からの車両を受け入れ、中心市街地への流入抑制を図る。JRや高速バスの結節点としてビジネスやレジャー時のパークアンドライドの拠点、JRアンダーパスや東西自由通路と一体となった歩行者空間を整備する。 総合交流センター、多目的広場、駅西立体駐車場、JR高山駅舎、東西自由通路、駅東駐車場、駐輪場、駅前広場を整備する。		
概要	事業の実施手法、手順	総合交流センター、多目的広場、駅西立体駐車場、JR高山駅舎、東西自由通路、駅東駐車場、駐輪場、駅前広場を整備する。		
概要	事業始期・終期	始期：10年度から	終期：25年度まで	設定なし
今年度の改善・改革ポイント	前年度の評価結果、指示事項等を踏まえ記入 環境、コストに配慮した総合交流センターの設計			

3 事業費の推移・結果(Do)

区分		平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
総合計画計画額(当初)		100,000	400,000	600,000	2,700,000	1,100,000	
総合計画計画額(計画額)		100,000	400,000	600,000	2,700,000	1,100,000	
財源	事業費	10,000	589,000	600,000			
	(計画・予算・見込・決算額)	決算・見込	0	518,211			
	国庫支出金	予算額	4,000				
		決算・見込	0				
	県支出金	予算額					
		決算・見込					
	地方債	予算額					
		決算・見込					
	受益者負担	予算額					
		決算・見込					
繰入	予算額			600,000			
	決算・見込						
一般財源	予算額	6,000	589,000	0			
	決算・見込	0	518,211				
H17国勢調査		96,231人	32,174世帯	※コスト→行政活動の単位当たり経費算出、変動を経年比較により、効率性評価			
コスト指標	受益者負担率(受益者負担/事業費)	単位 %	-	-			
	市民1人当たりコスト(事業費/H17人口)	単位 円/人	0	5,385			
	1世帯当たりコスト(事業費/H17世帯)	単位 円/世帯	0	16,107			
	受益者1人当たりコスト(事業費/指標)	単位 円/人					
	↓ その他(空欄にコスト指標名記入、事業費をベースとして単位当たりコストを算出)	単位 円/人					

(成果面)

活動・成果指標	活動指標(投入した行政資源を使い、どんな活動を行ったか、どのようなサービスを市民に提供したかを表す指標)	指標名	総合交流センター整備進捗率					資料・出展算出式	事業費累計 / 総合交流センター総事業費	単位 %
	活動	目標値	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	活動の方向
	実績値	0	1	20	80	100	100	100		↑
成果指標(活動やサービスを行った結果、市民にどのような影響(効果)をどれだけ与えたかを表す指標)	成果指標	指標名	総合交流センター利用者数					資料・出展算出式	総合交流センター利用者数	単位 人
	成果	目標値	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	成果の方向
	実績値	0	0	0	0	65,000	130,000	130,000		↑

3 事業費の推移・結果(Do)

前年度までの実績(累計)	対象・手段	総合交流センター設計委託 用地費 ポット公園整備 シンボリック計画委託	1,630,643 千円
	事業費	(内容)	千円
	受益者負担	(内容)	千円
本年度	対象・手段	総合交流センター監理委託 総合交流センター新築工事	600,000 千円
	事業費	(内容)	千円
	受益者負担	(内容)	千円

4 分析・評価(Check)

①事業の目的評価(事業の目的・概要に対する妥当性から事業の必要性を評価)

(現状及び判定理由) 飛騨地域の玄関口としてふさわしい都市空間の整備とJRによって分断された駅東西地域の一体的な整備を行ない、中心市街地の再生を図る必要性が高い。

判定	目的評価
A:非常に高い	A
B:高い	
C:低い	
D:非常に低い	

②コスト面評価(事業の推移、コスト指標の結果からコスト面を評価)

該当項目「1」入力(注 平成20年度から平成22年度第一四半期までの推移から判断)

減少	維持	1	増加
(判定理由) 総合交流センター設計においてコスト削減を行なっている。			

③成果面	増加	維持	減少
拡大			
維持		○	
減少			

コスト・成果ポジション

E

第3水準

③成果面評価(活動指標・成果指標から成果面を評価)

該当項目「1」入力(注 平成20年度から平成22年度第一四半期までの推移から判断)

拡大	維持	1	減少
(判定理由) 未着工のため。			

目的評価「A・B」かつコスト・成果「第1水準」	→ I 「良い」	良好な水準を維持
目的評価「A・B」かつコスト・成果「第2水準」	→ II 「やや良い」	「I」の水準に向けた改善が必要
目的評価「A・B」かつコスト・成果「第3水準」	→ III 「普通」	「II」の水準に向けた改善が必要
目的評価「A・B」かつコスト・成果「第4水準」	→ IV 「やや良くない」	「III」の水準に向けた改善が必要
目的評価「C・D」もしくはコスト・成果「第5水準」	→ V 「良くない」	「IV」の水準に向けた改善もしくは事業の休止、廃止などの検討が必要

一次評価 主管課

評価区分

III

判断の理由及び課題問題点
停滞していた駅舎・自由通路のJR協議を早期に進め、事業を計画どおりに進める必要がある。

5 今後の方向性(Action)

評価結果に対する改善提案(下記チェック)

計画どおり 改善・継続 終期設定 休止 廃止 完了

駅舎・自由通路のJR協議を早期に進め、計画的に事業を進める。

次年度実施方針

駅舎・自由通路のJR協議を早期に進め、計画的に事業を進める。

総合評価

コスト	成果	評価区分
高	高	III

「II」以上の水準に向けた改善が必要

本事業は総合交流センターや駐車場整備などの公共施設を整備するもので、飛騨の玄関口としてふさわしい拠点形成をはかるために必要な事業であるが、総合交流センターの建設については、再度市民の合意形成を図る必要がある。